

県支援協情報

2009.3.31発行
第9号

発行/富山県介護支援専門員協会

富山県富山市安住町 5-21 (サンシップとやま 3F)
TEL 076-432-6455 FAX 076-432-6450

平成20年度富山県介護支援専門員協会総会

平成 20 年 5 月 30 日(金)の午後 1 時 30 分より、富山市民プラザ・アンサンブルホールにて平成 20 年度の富山県介護支援専門員協会の総会が開催されました。

冒頭、高原会長があいさつの中で、「今年度より導入される後期高齢者制度では、主治医等とケアマネジャーの情報の共有・連携を推進することが診療報酬体系の骨子に明記されケアマネジャーの位置付けがより明確になり、その役割がますます重要になる。」ことなどを述べました。

また、議事では執行部より平成 19 年度の事業報告並びに決算報告が行われ一括審議されるも、満場一致を持って承認されました。

次に、平成 20 年度の役員が紹介され、その後事業計画並びに予算(案)の報告が行われました。予算(案)の収入の部の会費収入で、今年度は個人会員の増加に伴い前年度予算額より 690,000 円増を見込んでいることの説明がなされました。その後審議に入るも、会場から個人会員加入等についての質疑があり、黒田副会長より説明が行われました。説明後採決に移り、満場一致で平成 20 年度の事業計画並びに予算が無事可決承認されました。

閉会の後、「後期高齢者医療制度と介護支援専門員」と題し、講師として日本介護支援専門員協会常任理事、(社)地域医療振興協会常務理事、西吾妻福祉病院管理者である折茂賢一郎氏より基調講演が行われ、盛会のうちに平成 20 年度富山県介護支援専門員協会の総会が終了しました。(高野)



基調講演 折茂賢一郎 先生

支部活動紹介

新川地区(黒部、入膳、朝日)

当協議会では、コミュニケーションワークの研修会 2 回(中村慎一氏:相手の本音を引き出すコミュニケーション、小見光子氏:対人援助法)と嚙下の研修会 1 回(金塚千恵子氏:嚙下のしくみと障害の予防及び対策について、宮崎剛州氏:飲込みの悪い方の食事のアドバイス)の計 3 回行いました。また、より効果的・効率的な主治医との連携を目的に主治医・ケアマネジャー連絡票の活用から 1 年が経過し、活用状況についての評価を行いました。

さらに、地域内における通所、施設サービス利用の際必要となる診断書を一本化しようという試みを行っている最中です。(坂東)

射水地区

当協議会では平成 21 年 1 月 23 日(金)に大門総合会館において射水市内の居宅介護支援事業所とサービス事業所を対象に、研修会と情報交換会を行いました。

研修の第 1 部では富山福祉短期大学 看護学科長 炭谷靖子教授による「ターミナルケア～介護支援専門員としての心構え」と題して講演をいただきました。人生の最期を住み慣れた家で迎えたいと願う本人、家族の支援などについて学びました。第 2 部では射水市民病院 内科副部長 堀 宏之先生による「メタボリック症候群と生活習慣病」についての講演をいただきました。第 3 部の情報交換会ではいろいろな職種の人と、日頃の悩みを話す機会になり、また、全員参加型の「いみずムズムズ体操」でリフレッシュし、充分交流できたと思います。展示室では福祉用具、メタボグッズなどの展示もあり、充実した一日を過ごすことができました。(串田)

第1回富山県介護支援専門員研究大会

富山県介護支援専門員協会は、個人会員を中心とした職能団体に変わり、会員が研鑽する機会を支援するため研修会の開催や情報提供等をおこなってまいりました。今年度はさらに会員の資質向上に役立ててもらうため、昨年11月23日に第1回富山県介護支援専門員研究大会を県民会館で開催しました。

石川、福井両県の介護支援専門員の方々にも参加をいただき、約200名の参加者が「地域と介護支援専門員の役割」～インフォーマル支援の活用～をテーマに、それぞれの地域における実践事例の報告や諸先生方のご教示をいただきながら、ともに考え学びあうとよい機会になりました。昨今、介護支援専門員が利用者の自立生活を支援する体制整備において、どのように地域の社会資源やインフォーマル支援を活用していくかが課題ですが、広島文教女子大学教授 蛭江紀雄先生の講演の中で、介護支援専門員は単にニーズとサービスをつなぐのではなく、人と人をつなぐ仕事であり、助け合いの仕組みづくりが福祉文化を創造するというお話は、再度介護支援専門員の役割とめざすべき目標を明確にされたように思います。また、各県からの事例発表は、介護支援専門員の関わりによって地域の力を引き出し、利用者が地域に住み続けるための大きな支えになっていることが示され、介護支援専門員の活動のあり方を検証するよい機会になりました。

大会後のアンケートには、「興味ある内容であった」「大切なことを考え直す良い機会になった」「次回も参加したい」などなど好評なご意見をたくさんいただき、主催者として大変うれしく思っております。来年度においても2回目の研究大会を企画したいと思っておりますので、多くの皆さまのご参加をお待ちいたしております。

最後になりますが、大会開催に際して関係各位の皆様から、多大なご協力を得ましたことに対し、感謝申し上げ報告とさせていただきます。



基調講演 蛭江紀雄 先生



シンポジウムの様子



北陸三県各代表演者

当協会ホームページ リニューアル

平成20年9月より、当協会のホームページをリニューアルしました。

会員の皆様方へのお役立ち情報や、各種研修等のお知らせを随時アップしております。どうぞご利用ください。

また、バナー広告の掲載も随時受け付けています。

公的な研修やイベントの掲載も無料で行っております。お問い合わせは富山県介護支援専門員協会事務局まで。



平成20年度主任介護支援専門員フォローアップ研修

今回の主任介護支援専門員フォローアップ研修は、主任介護支援専門員研修と合わせて、1月14日に開催されました。

テーマは、「主任介護支援専門員の役割と視点」。

講師は、武蔵野大学人間関係学部教授 佐藤信人先生でした。

内容は、主任介護支援専門員の定義として、主任介護支援専門員とは、どのような役割を担うべきか？何のためにそうするのか？単に他の介護支援専門員に適切な指導・助言を行うだけでなく、地域における包括的・継続的なケアシステムの実現を目指して、必要な情報の収集・発信・事業所・職種間の調整を行うべきであること。

更に、事業所における人事・経営管理ができなくてはならないこと。そして、何よりも大事なのは、利用者の視点にたって、種々のサービスの質や量を確保、改善していけるように提案していくことであると講演されました。

介護支援専門員は、「戦力家であるべき」ということばが、印象的でした。とにかく、気持ちを新たに頑張らなくてはならないと身の引き締まる思いでした。



佐藤信人 先生



平成20年度介護支援専門員スキルアップ研修

(第1回)

7月26日(土)サンシップとやまにおいて ALS の専門家である国立病院機構宮城病院今井尚志氏(富山県出身・神経内科)、椿井登美恵氏(MSW)が高度の医療処置を受けている特定疾患の患者さんを自宅、施設でどのように支援していくかについて、経験例を挙げながら紹介されました。

特に高度の医療管理が必要とされる患者さんを施設が受け入れるまでの過程に興味深く聴講しました。(坂東)



今井尚志、椿井登美恵 両先生

(第2回)

2月15日(日)県民会館において、国立長寿医療センター包括診療部長の遠藤英俊先生をお招きし、「在宅緩和ケアに視点をあてて」と題してご講演いただきました。

100名あまりの参加者の中には実際に緩和ケアをおこなっている訪問看護師の皆さんの参加もあり非常に層の厚い研修会となりました。

ターミナルケアの基本理解、施設におけるターミナルケア、在宅における緩和ケア、要介護者に多い疾病の理解、主任介護支援専門員の役割を講義いただきました。先生は日本介護支援専門員の班研究委員もされ、現在の介護支援専門員の実情もよく理解されており、現場に沿った分かりやすい内容でありました。

今後はさらに、医療・介護保険制度は変化することが予測されていることから、介護支援専門員は利用者をサポートする様々な業種と連携しマネジメントをおこなっていかなければなりません。協会としても各団体との連携強化とともに、会員の皆様の悩んでおられる課題を題材に研修会を開催して参りたいと存じますので、是非お声をお寄せ下さい。(野口)



遠藤英俊 先生

平成20・21年度役員紹介

会 長	高原 啓生	堀川・光陽地域包括支援センター
副会長	竹内 嘉伸	南砺市民病院 地域連携科
	荒木富美子	JA 高岡居宅介護支援センター
	黒田 正一	㈱とやまヒューマンサービス
理 事	坂東みゆ紀	医療法人 坂東病院
	上野 博美	深川病院指定介護支援事業所
	山口 京子	パティオしらゆり
	高野 博之	高野接骨院ケアプラン
	松原 良子	ほたるの里
	酒井 淳子	立山居宅介護支援事業所
	加藤 豊子	上市町地域包括支援センター
	江上 昌子	八尾南地域包括支援センタ
	野口 雅司	婦中東地域包括支援センター
	芝木 直美	射水万葉苑居宅介護支援事業所
	福田利津子	居宅介護支援センター萩の里
	谷口 洋子	社協居宅介護支援センター高岡事業所
	七瀬 美幸	氷見市社協介護計画センター
	中田 康則	清楽園在宅介護支援センター
	串田美代志	特別養護老人ホーム大江苑
監 事	松浦 佳紀	特別養護老人ホーム大江苑
	重田まつ子	上市町地域包括支援センター

刊行物紹介

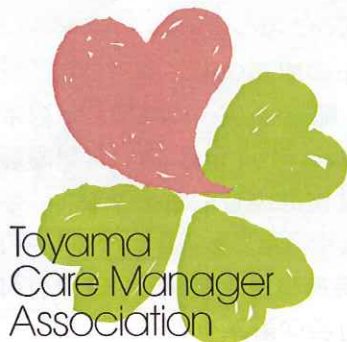
★現任のケアマネジャーが執筆★

介護保険制度が浸透し、さらに高齢者が増加していく中、介護支援専門員の責任は年々重大・重要になってきています。このため、専門職としてのスキルアップは絶対条件ともいえる状況です。このような状況の中、介護支援専門員の専門性と実践力の一層の底上げや日々の活動の円滑化の一助となるハンドブックです。

本書は実際に業務に携わっている現任者が執筆しているため、現場で必要な基礎知識や制度のポイントなどすぐに役立つ情報が網羅されています。



保健、医療、福祉、介護の連携をめざして
社団法人京都府介護支援専門員会編集
中央法規出版発行



当協会ロゴマークについて

このロゴマークは、富山県介護支援専門員協会への名称変更記念の一環として、平成19年6月から8月にかけて一般、会員を対象に公募され、応募4作品から厳正な審査を経て、総会で発表されました。

ロゴマークに選ばれたのは、南砺市在住の北川さんの作品。

デザインコンセプトは「～ケアマネジャーの温かい **こころ**で、ひと・サービス・地域を結ぶ～」

私たち介護支援専門員の利用者に向かう姿勢は、いつも身近に寄り添うこと。そのこころの象徴として、暖かい赤のハートマークが利用者のみならず地域に暮らすすべての人と、介護サービスを結ぶ縁(えにし)となる姿をあらわしたとのこと。

選考委員長の富山県介護支援専門員協会 高原啓生会長は「決定されたマークは、富山県介護支援専門員協会が、利用者と家族と接するうえで一番大切にしている「身近に寄り添うこと」を象徴しています。」と講評されました。

応募していただきました皆様、ありがとうございました。

今後は、誕生したロゴマークに親しんでいただけるよう、総会、学術集会や送付物、ホームページなど会員の皆様の目に触れる機会を活用し、ロゴマークが会員の皆様に末永く愛されるものとなるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。